

令和5年1月4日

あらためまして、明けましておめでとうございます。

2023年となりましたね。この年末年始、みなさんはどう過ごされたのでしょうか。

一昨日、昨日と箱根駅伝をやっていました。例年、私の場合はテレビをつけてBGMのように箱根駅伝の中継を流して他の事をやっているのですが、今回はじっくりと見てしまいました。元々注目されていたのもありますが、なんとといっても「致知」にちょこちょこ登場される大八木監督の駒澤大学が伊勢・出雲と併せた3冠がかかっている、しかも完全優勝を公言していたのもあって、強敵揃いの中でどんな展開を披露してくれるのか楽しみにしていました。

結果は公言通りの完全優勝での3冠、しかも最初の1区の超スローペースという波乱含みの中でも動じることなく、その後も淡々と区間上位を重ねていき、まさに横綱相撲でした。私が昨年末に申し上げた、心技体を兼ね備えた組織集団、そこに大八木監督の「情熱」が加わり、日本一という集大成を見せていただきました。こういう姿を目指していきたいですね。

さて、昨年2022年はいろんな事がありました。みなさん一人ひとりに5大ニュースを挙げていただいたとしても、事柄が全然一致しないくらいにいろいろあった、そんな印象的な年でした。荷主であるお客様にとっても、引き続きコロナ禍で海上運賃の高騰、急激な円安、原材料の値上がり、ウクライナ情勢と逆風が吹き荒れる状況。中国依存度の高い当社にとっては、上海ロックダウンが直接的な大打撃となりました。

2023年も取り巻く環境としては厳しさが続きますし、加えて中国情勢がどうなっていくかが大きく左右してきます。そういう意味ではピンチは続きます。しかし、ピンチはチャンスに変えることもできます。ひとたびチャンスと見ればそこに集中する、まさに昨年のサッカーワールドカップでドイツ・スペインを撃破した日本代表のようなスタイルで臨んでいきたいと思います。

そうそう、今年は兎年。実は私も兎年。年男なんです。まあそんな事は別にいいですけども。兎って「飛び跳ねる」イメージがあるのですが、実はあまり高く跳ねません。むしろ、地を這うように低く前へ前へと進みます。高く跳ねると落ちるし逆風に押し戻されます。本来の兎のように、一步一步着実に前へ進む、そんな年にしていきましょう。本年もよろしくお祈りします。

以上

代表取締役社長 角高哲治